

【エクアドル経済:2011年12月】

1. 国内経済

(1) 法定最低賃金改定

29日、リチャード・エスピノサ労働関係大臣は、法定最低賃金(SBU:Salario Basico Unificado)を月額292ドル(2010年264ドル)とし、2012年1月1日より適用すると発表した。労働関係省によると、推定インフレ率(5.14%)や国内生産性など種々の指標に基づき分析調査を行い、28ドルの引上げを決定した。

(当館注:最低賃金は月額292ドルであるが、社会保障費や13ヶ月給与(9月払い)、14ヶ月給与(12月払い)の支払い義務も課されているので、事実上の最低賃金は371ドル)

(1) 鉱業開発

5日、キンロス社(加)は、政府とサモラ・チンチペ県に位置するフルタ・デル・ノルテ(FDN)金鉱床の開発に関する契約前の取決めに署名したと発表した。右鉱床の金埋蔵量は680万オンス、時価115億ドル。右プロジェクトでは、採掘権料(5~8%)・法人税(25%)・消費税(12%)・収益配当税(15%)・特別利益税などを併せ少なくとも収益の52%相当が政府に分配される。採掘権料(ロイヤリティー)は変動制で、金1オンスあたり1200ドル以下の場合では収益の5%、同1200~1600ドルでは6%、同1600~2000ドルでは7%、同2000ドル以上では8%と定められている。

(2) ジェット燃料への補助金カット

16日、コレア大統領は大統領令第968号に署名し、航空機に使われるジェット燃料の補助金カットを正式に決定した。ジェット燃料はエクアドル石油公社(Petroecuador)が価格を決定し、右価格は国際価格の1.25ドル/ガロン以内としている(同令第二条)。報道によれば、現在、航空会社はジェット燃料購入に1.24ドル/ガロンを支払い、政府が1.8ドル/ガロンの補助金を助成している、1月以降は航空会社は3.04ドル/ガロン全額を支払うことになる。

2. 対外経済

(1) ヤスニITTプロジェクト

(a) 本年目標額を達成

7日、イボン・バキ(Ivonne Baki)ヤスニITT運営交渉委員会委員長は「エクアドルは資源開発によってもたらされるであろう環境への影響を避けるべく、埋蔵原油を地中に留めるといったプロジェクトを進めるための目標額1億ドルに達した」と述べた。政府は本年末迄に支援金1億ドルの目標額を定めており達成された。

(b) グルジア政府による支援

27日、国連エクアドル代表部(NY)は、グルジア政府が正式にヤスニITTイニシアティブに総額10万を拠出した旨公表した。拠出証明調印式は国連開発計画(UNDP)事務局で執り行われ、グルジアのロマイア大使(Alexander Lomaia)、及びエクアドルのパスミニヨ大使(Diego Morejon Pazmino)が署名した。

(c) 良品計画による支援:外務省プレスリリース

27日、(株)良品計画の金井政明・代表取締役社長と国連開発計画(UNDP)の八木浩治・東京事務所次席代表は基本運営協定(Acuerdo Administrativo Estandar)に署名した。在京エクアドル大使館は、良品計画の拠出額は総額20万ドルに及び2012年2月29日までに現金拠出される旨明らかにした。エクアドルが本年末までとする目標を守るため、拠出を取決める合意文書に調

印した同社代表の関心の高さに格別の敬意を払う必要があると旨調した。

(d)ヤスニITTプロジェクト拠出期限延長

30日、エクアドル政府はヤスニITTイニシアティブの拠出期限を延長した。バキ(Ivonne Baki)ヤスニITT運営交渉委員会委員長は、「ヤスニは世界を駆け巡る(Yasuni recorre el Mundo)」キャンペーンを実施し、明年は総額2億9100万ドルの拠出金を獲得したい。本年の成果を示すために大統領と会合した。大統領は期限を延長した。87%以上の国民がヤスニを信じ、少額であっても支援しようとしている。このヤスニは世界の優先課題である。世界経済危機の問題は承知しているが、我々が今すぐに何かしなければ気候危機はさらに悪化しよう」と語った。

(2)対露関係：衛星の打上げ契約

13日、エクアドル空軍(FAE)及びエクアドル宇宙庁(EXA)はエクアドル初となる衛星の打ち上げに向け、ISCコスモトラス社(露:Kosmotras)と契約を締結した。

カリオン(Hector Carrion)エクアドル宇宙庁(EXA)担当官は、「2012年9月に、通称NEE-01 Pegaso衛星をロシア製ロケットで打ち上げ予定である。衛星は完全にエクアドル宇宙局(EXA)の技師チームにより国内設計・製造される。衛星は全長75cm、重量1.2kg、キューブサット1U型(Cubesat 1U)小型人工衛星であり、地球周回軌道からの生映像の送信、写真の撮影ができるカメラを搭載している。衛星は主に科学技術ミッション及びその他教育のために使用される。今後、さらに大型で能力のある衛星製造が期待されている。」と説明した。

衛星のコストについては未だ内密とされている。契約締結に向けた協議は2011年1月に始められ、エクアドルのナデル(Ronnie Nader)宇宙飛行士がロシアで行った調査の結果をもとにロシア企業に決定した。衛星はエクアドル宇宙庁(EXA)技師チームにより約1年ほどかけて、外国の援助なしに完全にエクアドルで製造される。右チームは2009年4月に結成され、ナデル宇宙飛行士、カリオン担当官、Sidney Drouet氏、Manuel Uriguen氏、Ricardo Allu氏が参加している。衛星は放射防御スクリーンを搭載しており、太陽炎の電磁波に耐えることが出来る。同様に、温度安定システム及び太陽光パネルも搭載している。